



～令和7年度定時総会 第2回理事会 終了報告～

令和7年度北臨技定時総会を、6月7日（土）札幌医学技術福祉歯科専門学校において開催しました。出席者は2,671名（会場出席47名 委任状2,624名）でした。冒頭、早坂会長の挨拶に続いて表彰式を執り行い、4名の功労者の皆様（十勝地区：後藤浩実氏、札幌地区：田上稔氏、渋井雅子氏、室蘭地区：三浦克之氏）に賞状と記念品が授与されました。その後、札幌地区 小野誠司氏を議長に選出し議案審議に入りました。第一号議案では令和6年度の事業を、第二号議案では一般会計および会立検査所の決算が審議され、それぞれ承認をいただきました。終わりに日本臨床検査技師連盟（日技連）北日本ブロック長である磯辺氏から本年7月に予定されている参議院選挙についての説明がありました。日技連では我々検査技師の待遇改善と今後の新たな業務拡大を勝ち得て行くためにも独自候補の擁立を目指していますが、今期については診療放射線技師で元衆議院議員のあぜもと将吾氏を日本診療放射線技師連盟と共に応援していく方針であることが報告されました。また、日技連では月に1度 Web で医療政策などについての勉強会が開かれています。興味のある方はぜひ日技連のホームページからご覧ください。

総会に引続き、第2回理事会を開催しました。まずは日臨技関連や各部門からの会議報告、そして地区活動報告等がありました。次に北臨技ホームページの外部委託化について説明がありました。現在は北臨技常務理事が管理・運営しておりますが、更新作業は実質一人で行わなければならない点や使用ソフトやPCの更新など様々な不具合があることから外部委託をすることになりました。使い勝手の良いホームページを目指し、リニューアルの際は皆様にもお知らせいたします。次に役員派遣と北臨技災害対策マニュアルの提案があり何れも承認されました。なお、北臨技災害対策マニュアルについては発災時に北臨技の果たすべき役割をはじめとして、会員施設の被災状況や会員の安否情報を適宜把握し滞りのない支援を行うために定めたものです。今後は被災施設の詳細な状況の収集をなるべく簡易にできる発信ツールの採用も視野に入れたマニュアル構築を検討していく旨の報告がありました。

最後に新年度がはじまり2か月が経過しましたが、今後も工夫を凝らした魅力ある研修会事業が各部門で予定されております。引き続きのご協力とたくさんのご参加をお願い申し上げます。
(北臨技副会長 下津 達也)

◆災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定について◆

5月27日（火）北臨技会館において、北海道臨床検査薬卸連合会様と当会との間で「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定」を締結しましたのでご報告致します。

近年、地震や豪雨などの自然災害が多発しており、その教訓から様々な整備がなされ、DMAT や JMAT といった災害救援チームの派遣など被災地を支援するシステムが整いつつあります。それに伴い臨床検査技師もその役割が期待されますが、臨床検査技師として支援を行うためには、臨床検査薬や臨床検査機器などの必要な器材及び衛生材料・高純度精製水等の確保が必須となります。しかし、過去の災害時においてはその供給や配分、そして物流に関して多くの課題が見受けられました。

この度の協定は臨床検査に必要な臨床検査薬等を滞ることなく適時、被災地に届ける事を目的として、臨床検査薬等の保管や搬送経路、搬送車両の確保も含めて卸連合会様にご協力いただくものです。本協定締結で全ての課題が解決出来るものではありませんが、職能団体として一定の物流コントロールが可能となり、卸連合会様とより強固な関係性も構築することができました。今後は非常事態により円滑な支援が行えるよう、北海道との三者協定締結を目指します。
(北臨技副会長 下津 達也)

北臨技様との「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定書」の締結ができました事を大変うれしく思います。数年前より協定書締結の協議をさせて頂き、途中コロナの影響により協議を中断せざるを得ませんでしたが、この度無事完了できました事、感謝申し上げます。

今後は当卸連合会が積極的に推進しております自治体との協定書締結に向け、北臨技様と足並みを揃えながら北海道との三者協定締結を目指し、活動してまいります。

そして北海道の医療・臨床検査に少しでもお役に立てるよう、尽力してまいります。

(北海道臨床検査薬卸連合会 会長 佐伯 聡)



受賞者を代表して渋井さんからひと言頂戴しました！

感謝状に感謝します？！

このたび北臨技の特別表彰として感謝状をいただきました。

私は昨年3月末まで37年にわたり北臨技会立検査所に勤務し、技師会事務局の仕事も担ってきました。振り返ると、職場の仲間、北臨技役員、地区役員、会員皆さまと過ごした楽しい思い出がたくさんあります。特に思い出深いのは、北臨技担当の日臨技学会です。第42回(1993年)では会員有志で合唱を披露することになり、原語でフィンランディアなどの練習に励みました。第57回(2008年)はWebでの抄録登録が始まって間がなく、問合せ電話が殺到し深夜まで親身にサポートしました。大規模イベントは大変ですが、達成感もひとしおです。

これからは人口減少が進み、社会や医療体制も変わらざるを得ないと思いますが、技師会のもとで力を合わせて未来を切り拓いてください。皆さんをいつも応援しています。

(北海道臨床衛生検査技師会立衛生検査所 所長 渋井 雅子)

